

2021 IR DAY 質疑応答

日時: 2021年11月29日(月) 10:00~11:20

No	項目	Q	A
1	R&D	今後海外での研究開発強化をどのように行うのかについて、海外でのリソース確保の観点も踏まえ教えてください。	まずは、OVALO、Adcosの強化・活用を推進したいと考えている。Predictive Active Suspensionでの知見が、当社の様々な分野のシステム製品開発にも活用できる。 また、オープンイノベーションを通じ、関係性作りや海外人材の活用を進めていきたいと考えている。現在、欧州では一部大学とも協業しているが、今後は他の地域(米国や東南アジアなど)でも進めていきたい。 開発が進んでいく過程で、パートナーとの関係強化も検討する。
2	R&D	5年前や10年前と比べて、開発力が高まっていると感じるか。	5-6年前と比べ、電気電子、AIなどのシステム化製品につながる技術のリソースが着実に増えてきていると感じている。また、機械系の強化も継続的に進めている。今後、人材確保が難しい時代に入ってくると考えているため、オープンイノベーションも活用しつつ開発力を高めたい。OVALO/adcosの買収もシステム開発力強化を行うための一環。
3	R&D	新事業・新技術の探索に力をいれているようだが、すでにマーケットシェアが高い状態で、それらを探索する背景を教えてください。	企業が成長を遂げていくためには既存事業を守るだけでは不十分。さらなる成長を続けていくためには、新しい事業や新しい製品へのチャレンジが必要。知財についても今強いからといって、それが永続的に続くとは考えていない。今現在危機的な状況にあるわけではないが、既存事業を守りながら新しい事業にでていくための方策として考えている。
4	R&D	AI活用は、実際にどのようにデータを活用しているのか。また、データを使った事業展開を行うまで、どのくらいの時間がかかるのか、具体的にどういった事業で活用予定なのか教えてください。	データ収集はセンシングがカギ。事業ごとに進め方が違うが、すでに事業化ができてい る事例は、CMFS(風力発電機向け故障回避機能付き状態監視機器)。AIの活用は、それぞれの事業に応じたアルゴリズムを開発している段階であり、長期ビジョン達成にむけて、継続し開発を進める。 AIは思ったより当社製品との親和性が高く、エッジコンピューティングは既存の製品に広く活用できると考えている。また、クラウドAIについては、MRO関連での活用も期待している。
5	R&D	コンポーネント開発においてセンサーの組み入れが今後増えていくという印象をうけたが、現在の普及度合いを教えてください。	現在開発の最中なので、実際に製品化されたものはないが、センサーについては、母機メーカーも関心が高いので、エッジコンピューティングは顧客の競争力にもつながる分野と感じている。
6	R&D	CMFSについて、ベアリングメーカーが同様の戦略をお行おうとしているが、どのように差別化するのか。	当社の特徴は状態を監視するだけでなく、直接減速機を制御することでヨー旋回部の故障回避を行うこと。 実際どのように使い分けるか、全ての風車に取り付けるのか、必要な環境のものだけにするのか等は、発電事業者や風車メーカーのご判断になる。
7	R&D	Digital Twinは製品価値の向上にも資するということだが、シミュレーションモデルの活用方法と効果を教えてください。	Digital Twinは劣化推定・将来予測を高い精度でできるようになる技術。 Digital Twinの活用によって、バーチャル環境を整備し、設計の早い段階で課題の洗い出しができるため、当社として早期に強化すべき箇所の把握できるメリットがある。
8	R&D	TRSのビジネスにおいて、開発の取り組みがMROビジネスの獲得につながった事例があれば教えてください。他の事業で使えるものがあれば教えてください。	今回紹介しているAIは、今後の製品開発につながるものなので実績ではない。定量的な数字はないが、今後クラウドAIを活用したサービスにつなげたい。エッジAIはMROにつながるというよりはコンポーネント自体の製品価値向上につながるのが主体だと考えている。
9	知財戦略	知財戦略について精密減速機での事例を教えてください。知財戦略により、どのように参入障壁を高めることができるのか、また、現在強化しなければならないポイントがあれば教えてください。	知財戦略の基本的な考え方は、他事業と変わらないが、顧客ニーズの把握やその変化を予測し、特に中大型の精密減速機を中心に知財網を構築することで参入障壁を高めていく。また重要なKnow-how部分を徹底的に秘密保護することも現在のポジションを守るうえで重要である。さらに、模倣品排除も模倣企業の技術力向上のペースを抑えるために必要。
10	知財戦略	鉄道事業など各国の政策の影響がある場合、どのような対策を講じるのか？	国産化のような影響の大きい政策に対して、知財面では、現地法人への技術ライセンスの供与を含めて対応していくことが考えられる。但し、技術ライセンスで対応する際にも、当社にとっての強み(コアなノウハウ)を渡すことにならないような秘密情報管理が必要になる。
11	知財戦略	中国における知財戦略は別の地域のものとは違いがあるのか？	中国での戦略はコア価値の獲得強化という観点からはその他の地域と同じであるが、特に模倣品対策が重要であると考えている。その対策としての権利確保を追加で行い、模倣の芽が小さいうちから権利行使して排除している。
12	知財戦略	どの事業において、特許の側面からM&Aを検討しているのか。	具体的な開示はできないが、すべての事業が対象になりうると考えている。 M&A対象企業に比べ特許数が少ない技術分野は、当社がこれまでは強みとしたと考えていなかった分野であるが、市場変化の関係で今後、強化すべきと認識した分野である。この技術分野を強化するにあたり、自社開発すべきか、M&Aを含め外部から調達すべきかをIPランドスケープで分析しながら検討することになる。
13	知財戦略	知財経営には知財ガバナンスの動きもあり、取締役会で知財に詳しい独立取締役を参加させたり、知財イノベーション委員会などで外部有識者を活用するなどの考えはあるか。	知財戦略に関して、現在は執行側での議論や事業部門・本部での議論が中心だが、コーポレート・ガバナンスコードの改定にも即した知財ガバナンス機能の拡充は必要と認識しており、対応を進めている。
14	知財戦略	知財の財務的な効果測定に関する議論はどのように行っているのか。	財務以外の側面からの評価は行っているが、今後、財務面での評価も行えるように、検討する必要があると考えている。